

入 選

「地域と共に」

株式会社大沢ガーデン 氏原雄一郎様

入 選

地域コミュニティの中で、同じ時間を共有し、楽しむ場として作られたウッドデッキです。

弊社社長がデンマークを訪れた際、家族で戸外のデッキに出て、夕食を楽しんでいる風景を目にしました。それは決して豪華な食事ではありませんでしたが、家族皆が笑顔で、見ている側も幸福を感じられるようなひとときでした。物質的な豊かさだけでなく、心に余裕が持てるような、その精神的なゆとりのある生活を日本の地でも再現したい。その情景を原点として、このデッキは組み上げられました。

東京は三鷹の地でその思いを実現するにあたり、緑が切り拓かれて乏しくなりつつある都市環境の中で、日本に根付いた藤棚の文化を活かすことを考えました。ウリン材で製作したウッドデッキは敷地一杯まで広さを取り、大人数が余裕を持って集えるようにしました。そこにパーゴラを組み、藤を絡ませることによって、デッキに緑の屋根ができあがりしました。藤は2種類を両端から絡ませているので、花期にはそれぞれの花を楽しめるようになっていきます。夏には緑の屋根として熱をさえぎる役割を果たし、夏の屋外空間でも快適に過ごせるようになりました。

藤の花期には、一面を覆うように美しい花を咲かせ、目を楽しませてくれます。それを一人で楽しむのはもったいない、他の人とも共有したいという思いから、近隣の方や友人を招き、花を見な

がらお茶会を楽しむようになりました。それが発展し、今では会社をあげてオーブンガーデンとして取り組むようになりました。藤の開花に合わせてデッキ上にレンガや鉢物の花などを配置し、季節を感じながら憩える場として設えています。さらに、ライトを配置して藤を照らし、夜間にも開放するようにしています。夜に照らし上げられた藤は昼とはまた違った表情を見せ、私たちの目を楽しませてくれます。その花を一目見ようと、今では見知った方だけでなく、さまざまな方に訪れていただけるようになりました。

また、年に2回の定期的な催しとして、50人ほどのお客様を招き、このデッキに面する居間をメインステージとしてプロの音楽家に演奏をしていただく、「大沢サロン」と題した催しを開催しています。特に春期の開催では花期と重なるため、ライトアップした藤を室内から眺めつつ、演奏を肌で感じるができます。

演奏会合間の休憩時間では、デッキに出ただけのお茶を召し上がりつつ、藤の花を鑑賞したり、演奏会にいらした方同士で会話をお楽しみいただいています。

このような取り組みを続ける中で、同じ時間・同じ場所での楽しい思い出とすることで、知り合いの方のみならず、それまで見知らぬ人同士でのつながりを深め、育んでいく。東京のような都会では地域の人の関わりが希薄になってい

ると言われる中で、地域の人のつながりの結節点のような場所として、このデッキガーデンは確かな役割を果たしています。



講評



専門講師
堀 久恵

藤棚のウッドデッキを作られた原点のお話が、とても印象的でした。特別な日の特別な食事ではなく、普段の何気ない食事でのひとときを持つ心のゆとり…大切にしたいですね。そして、藤のいい香りが漂ってきそうなお写真と共に、楽しむ工夫が随所に感じられました。デッキ単体では、夏場は暑すぎてしまっ、お外で楽しむ空間にはとてもなりえません。そこに藤を絡ませることによって、日差しが遮られ、快適な空間へと変わります。そんなライトアップされた藤を見ながら、生演奏が聴けるなんて、非常に贅沢な芸術療法ですね。私も参加させていただきたくなりました。

この空間が、社長さんから社員さんへ、お客様へ、地域の方へと段々広がりつつある様子は、まさに、植物を介したコミュニティの在り方のお手本です！これからも結節点として、多くの方にガーデンセラピーを体感していただける場の提供を行っていただきたいと思います。

